

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 塔野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

#### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

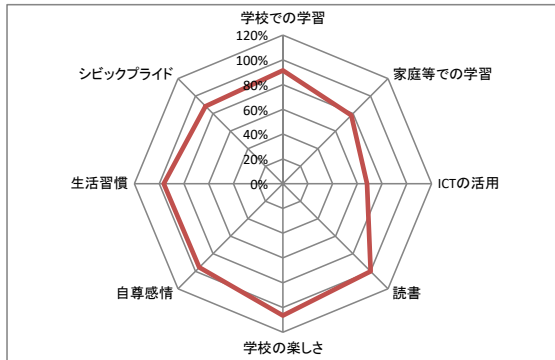
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均や県平均の数値からわずかに上回っている状況であり、ほぼ同様である。問題形式において、選択式・短答式では、良好な正答率であった。	全国平均正答率との比較	同程度である
	よくできた問題	書かれている内容として適切なものを選択する問題（選択式） 送り仮名に注意して、漢字の分の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題（漢字）		
	努力が必要な問題	問題点と解決方法を書く問題（記述式） 日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題（選択式）		

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均や県平均の数値からわずかに上回っている状況であり、ほぼ同様である。問題形式において、選択式・短答式では、良好な正答率であった。	全国平均正答率との比較	上回っている
	よくできた問題	伴って変わる2つの数量について表の中の知りたい数を求める問題（短答式） 分配法則を用いて答えを求める問題（短答式）		
	努力が必要な問題	切ってきた三角形の面積の面積の大小についてわかることを書く問題（記述式） 正三角形の意味や性質について理解しているかをみる問題		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・「学校に行くのが楽しい」「友達関係に満足している」の問いに対して90%以上の児童が肯定的に回答している。
- ・「ICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語科の学習等においても活用の場を広げ、児童が活用の実効性を実感できるようにする。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科において、考えを書き、それを持ち寄って話し合うことを通して、考えを広げたり深めたりする授業づくりに取り組む。算数科において、基礎的・基本的内容の定着を図るとともに、考察し、それを記述する活動を重視する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習や生活習慣づくりの大切さについて、学校だよりやほけんだより、学校HP・PTA活動等を通じて啓発する。保健学習や学級活動で自分の生活習慣を振り返り、自分なりのめあてを決めて実践させる等の改善に向けた取り組みを行う。